

# 『厳しさと挑戦!! 景気は良くなるらない』

## 「あくなき勉強と実践を!!」



高井法博会計事務所 所長  
TAC Tグループ関連12社 代表

税理士 高井法博

私は今東京のホテルの一室でこの原稿を書いている。

### 一、学ぶことの重要性

思えば六月も数多くの勉強会に出席した。

一日は岐阜県庁にて県の局長以上の方と大久保寛司先生の経営品質賞の話聴く。三日は桑名にて中部地域の代表的同業者の方々と監査法人との提携の仕方を話し合う。四日、事務所にて望月広愛先生から生涯顧客作りセミナーを受講。五日、竹田陽一先生からランチセミナー戦略セミナーを受講する。六日、盛和塾にて戸田直美社長の講演。八日、内外情勢調査会にて専修大黒瀬教授の講演。十日、十四日、伊良湖ガーデンホテルにて私自身が主催する経営計画実施作成セミナーの講師を行う。十五日、全国の大手会計事務所の方々と京都にて研修会。二十一日、二十三日、お客様を同行して年一回の研修旅行で関東へ経営品質賞受賞企業二社の見学。この他に竹内上人の経営人間学講座や、VAVクラブ等各種の勉強会に所属しており、またその他各種勉強会に所属してあり、またその他各種勉強

強会のテープ会員として数本のテープが送られてくる。これらは朝晩の通勤途上や移動の車中で聴く。月刊誌は六冊、新聞も四紙を購入し必要となるのは切り抜きスクラップをしている。この他に必要と思われる経営書について月数冊は購入し、テープやビデオも買う。これらの全てが役に立っているとはとても言い難いが、何故こんなに勉強するのか？それは何よりも自分自身が何もない中で十二の会社団体を創りその中で最高六億三千万円の借金をし、何十人かの社員を雇う立場になった責任からである。また、五百社を超える会社に関与させていただきその経営者に年がら年中お会いし、相談相手になるのが私の仕事であるからである。社長の悩みは果てしない。それにも関わらず、真に社長の悩みを理解し、回答を与えてくれる人はあまりにも少ない。反対に、社長の性格的な欠点や、マネジメン卜理論に対する認識不足を責める声は大きい。社長という職業は全く大変なもので、見方によっては最も割に合わない職業だと思ふ。こ

んな中で社長の役割は何であり、どうすれば良いかを駄馬に鞭打ち必死に求め続けているのが現在の私の姿であり、学び続けている所である。

### 二、多く知れば知る程良い判断、仕事ができる

物事を行う時、沢山知っていればいる程良い判断ができる。知識を沢山持つことは企業を豊かにする。よって自らも数多くの知識や人脈を持つと同時に、社内にも優秀で色々な個性を持った社員を多く集め、分担し勉強し各々が何を見聞しても各々の部署で、また自分の経営や処世に役立てるほどの貧乏根性・がめつさのある人が多いほどその会社は豊かになり発展すると言えぬ。

私自身自らの会社経営を軌道に乗せるべく、またお客様の要望、相談に正しく答えようと必死に求め続け学んだものをできる限りスピードを持って実践に移してきた。勉強をしてきたおかげで現在の環境の厳しさもそれなりに予見し対策もとれてきた。

### 三、厳しさに挑戦する

この厳しい経営状況は小泉総理、竹中大臣が言うように当面は回復しそうにない。我々は他力本願の甘い幻想をこの際スッパリ捨てなければいけない。難局に直面した時の経営者、幹部の心構えとして次の三つを強く意識しなければいけないと思ふ。

① かつてのように景気が回復するだろうという腰の甘い経営をやめる。つまり企業経営

が好転することについては一切無視し、悪化する、厳しくなることだけを考えて経営に当たる。言い換えれば、不況当然、好況例外とでもいえる心構えである。常に逆境に身を置くこと、危機感を抱いた経営をするということである。こうした経営であれば、悪環境に対応するために厳しい経営態度が貫かれピンチに陥ることもない。好環境による利益は余

### ② 緑と考えれば良い。

② あらゆる面で自分の足をきちんと固める。弱い点気になる点を好き嫌いではなく、しっかりと詰め対応していく。

③ 時代の変化を先見して経営計画書を作り作り、毎日の問題をスピードを持って一つ一つ確実に対応していく。

これらの問題に対応すべく色々な勉強会をまさに厳選し必死になって開催しているが、社員の認識も薄くまたお客様の自覚も弱いためか出席者が極めて少ない。どうか自社の状況と時の流れをしっかりとつかむために今以上に勉強会に出席し企業の大変革を行っていただくことを切望致します。